

# 現職教員のための 研修プログラム

社会は常に変化しています。特に21世紀に入って世の中の動きは加速していると感じておられる方は多いのではないのでしょうか。ですから当然、社会に生きる我々はその動きに対応する必要があります。どのような職業であれ、社会で働くすべての者が常に学び続ける必要があるわけです。教育現場で働く現職教員も同様です。「学び続ける教員」ということばは比較的最近よく聞かれるようになりましたが、当たり前のことを言っているに過ぎません。平成27(2015)年末の中教審答申(いわゆる3答申)においても現職教員の研修の充実と支援の重要性が示され、大学等と連携した研修や受講した研修の単位化などを協議する仕組みの構築についても示唆されています。さらに、管理職養成におけるマネジメント能力の醸成の重要性と現行の管理職研修の改善方策等についても示されているところです。

このような動きに先駆け、兵庫教育大学では、平成15年4月に兵庫県教育委員会との連携・協働により、兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発に関する調査研究会を設置し、平成16年度から「学校管理職・教育行政職特別研修」を開始しました。今年度は14回目の実施となりますが、毎年5月から6月にかけて200名以上の新任教頭、新任指導主事等の皆さんが本学で研修を受講されています。また、特別支援教育における地域のトップリーダー「アドバンスリーダー」の研修プログラム(平成25年度～)、英語指導力研修(平成26年度～)、指導主事の力量形成のための研修プログラム(平成28年度～)など、文部科学省や独立行政法人教職員支援機構の委託事業により、学校現場およびそれを支援する教育委員会等のニーズに応える研修事業を開発し、展開しています。上記以外にも、本学の多くの教員が、教育委員会や学校現場と連携した研修・講義・講演を行っており、その延べ数は1年間で数百件に達します。本学のこれほど多くの連携した取り組みは、全国の教育界から注目されていると言っても過言ではありません。

子どもをめぐる環境は、日々変化しています。すでに5年前の状況は今とは違っています。少子化がいつそう顕在化する10年後の学校現場を予測することは不可能に近いのです。今後とも、本学では社会変化・時代に素早く対応し、教育現場のニーズに応える研修内容を吟味していきたいと考えています。

学長 ふくだみつひろ  
福田光完

学長室から  
MESSAGE

